

新たな担い手の発掘を
〜まちづくりのニナITE講座〜



村上地域振興局が主催するまちづくりのニナITE講座が5月26日、村民会館を会場に行われました。

このニナITE講座は、まちづくりに興味のある方や、既に実践している方を対象に実際のまちの中からまちづくりの種を探し、魅力を発見する方法や、まちづくりを行う上でのポイントを学びます。

平成28年度から3年かけて行われた同事業は、今年実際にまちづくり計画を動かす段階に入ります。



今回の講座では、村内外から約30名の参加者が集まり、「まちあるきワークショップ」を開催。参加した臥牛山朝猛さん（村上市地域おこし協力隊、王輝（下関出身力士と同じ鍛冶屋に所属していた）は、「もともと地域おこしに興味があり参加しました。まちづくりに積極的に取り組む人たちがたくさんいるので大変刺激を受けました。まずは自分たちが楽しく、ワクワクするようなまちづくりを目指したい」と意気込んでいました。

災害発生時の対応を確認
荒川水防訓練開催

水防活動の重要性を認識しようと、6月10日、関川村の荒川河川敷を会場に水防訓練が行われました。

この訓練は、国土交通省をはじめ、新潟県、荒川沿線市村、関係機関などが洪水時期を前に毎年行っているものです。

村の消防団員105名も参加。縄の結び方や土のうなどの基礎訓練、堤防からの溢水を防ぐ積み土のう、堤防の決壊を未然に防ぐ月の輪工、シート張り工などの水防技術訓練を行い、水害発生に備えて士気を高めました。

洪水に注意!!

これからの時期は、梅雨前線や台風による水害の危険性が高まります。浸水常襲地、崖地、傾斜地など、自宅周辺の状況を確認し、早めの避難行動を心がけましょう。



自然の中を快走!
第45回 関川マラソン大会



6月17日、第45回目を迎えた関川マラソンが開催され、過去最高となる1,500人超のランナーが初夏の青空の下、健脚を競いました。

遠くは大阪府や兵庫県など関西方面からの参加者もいるなど、関川マラソンが広く周知されています。

丸山大橋では、家族や友人の応援にかけつけた人たちが、苦しい表情のランナーに「ファイト」、「がんばれ」などと声援を送っていました。参加者は、沿道からの応援を胸に、それぞれのペースでゴール地点のふれあいど〜むを目指しました。

レース後には、温泉宿泊券や地酒などが当たるお楽しみ抽選会が行われたほか、村食生活改善推進員やボランティアの皆さんが作ったわらび汁が振る舞われ、参加したランナーは疲れた体を癒していました。

健康づくり推進員のつどい 地域で健康づくりを広めよう



6月12日、健康づくり推進員のつどいが村民会館大ホールを会場に行われ、約70名が参加しました。

研修会では、村の健康づくり計画「健康せきかわ21」で推進するラジオ体操やウォーキングを地域で広めるために講演会を開催。参加者は食生活改善推進員と一緒に、NPO法人希楽々（きらら）運動指導士の田村みなみさん（下関）による実技指導を通し、地域活動の参考にしていました。村の管理栄養士からは「血管を守る水分補給」と題し、スポーツドリンクの場合は糖分が多く血管に負荷がかかるため、3倍ほどに薄めることが望ましいことや、普段はお茶が水にすることなどの講義がありました。

健康づくりに関しての関心が高まっています。みなさんもラジオ体操や地域の健康づくりに積極的に参加しましょう。

大したもん蛇まつり人形模型 県庁へお引っ越し

「大したもん蛇まつり」を再現した人形の模型が、県庁と自治会館を結ぶ地下通路の展示スペースに5月末から展示されています。

この模型は、約30年前に「和紙人形の会」のメンバーの村民約10名が作ったもの。週に1回みなさんで集まって、約3か月かけて完成させたそうです。担ぎ手は発砲スチロールと和紙、蛇はわらで本物そっくりに。当時の村長である鈴木久司さんやひげ政（川又政男）さんなども特徴ある人形になっています。おいしい自然館に展示されていましたが、大したもん蛇の魅力を広くアピールしようと県庁で展示されることになりました。

展示スペースの大きさに合わせて台座を替えるため、むつみ荘の通所者約10名で新しい台座に模型を移し替えました。通所者の方からは、「この模型をたくさんの人が見て、多くの人に村にきてもらいたい」と話していました。



旧齋藤医院でおんこ市

〈建物や歴史を未来へ〉



旧齋藤医院つなぐプロジェクトでは、5月26日、27日の2日間、「おんこ市」を旧齋藤医院で開催しました。

「おんこ」とは、「encore」フランス語で「再び」という意味と、「温故知新」：古きを訪ねて新しく知るといふ2つの意味から付けたもの。

初めての開催となったおんこ市は、村内外から11店舗が出店し、会場を盛り上げました。

昭和雑貨や、絵画展、工作



に石彫刻などさまざまなショップが立ち並び、訪れる人を楽しませました。2日目の最後には、モンゴルのモリンホール（馬頭琴）や、三味線を使った演奏で聞く人を魅了しました。

代表の近美千代さん（幾地）は、「旧齋藤医院の建物を活かそうと4人で始めた朝はんの会から始まったイベントが、こうしてたくさんの方に来てもらえて大変うれしい。これからもわさかぎ市やイベントなど随時実施したい」と話していました。